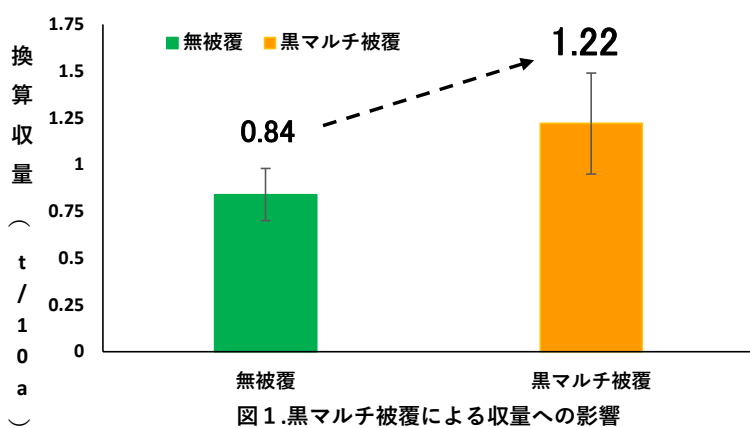


ラッキョウ有機栽培‘レジスタファイブ’の 黒マルチ被覆による増収効果



ラッキョウ‘レジスタファイブ’の黒マルチ栽培において、地温は高く推移し、収量は平均約1.3～1.5倍に増加します。また、雑草の発生は無被覆の10～20%になります。

検証1 露地ほ場における黒マルチ被覆の収量への影響



※図中のエラーバーは標準偏差を、数字は収量を示す。
換算収量 (t/10a) = 鱗茎重 × 10a当たりの株数 × 健全株率

収量は平均で
約1.3～1.5倍
多くなりました。

表1.収穫調査結果(‘レジスタファイブ’)

試験区	年度	全重 (g/株)	葉重 (g/株)	最大葉長 (cm)	葉枚数 (枚)	鱗茎重 (g/株)	分球数 (球)	1球重 (g)
黒マルチ被覆	2020	81.4	24.3	41.6	14.1	48.3	3.9	12.4
	2021	61.9	19.4	44.8	18.1	40.2	4.4	9.3
	平均	71.7	21.9	43.2	16.1	44.3	4.2	10.9
無被覆	2020	62.2	20.0	43.1	11.3	34.5	3.4	10.1
	2021	40.6	11.9	38.7	14.9	26.9	4.0	6.6
	平均	51.4	16.0	40.9	13.1	30.7	3.4	8.4
t-検定		*	n.s.	n.s.	*	*	n.s.	n.s.

*: 対応のあるt検定 (paired) により5%水準で有意差があることを示す。n.s.は有意差なしを示す。

元肥: 菜種油粕 (333kg/10a)、鶏ふん (350kg/10a)、苦土石灰 (66.7kg/10a)、PKマダ (33.3kg/10a) 追肥: なし

鱗茎重が
増加しました。

検証2 露地での黒マルチ被覆と地温の推移

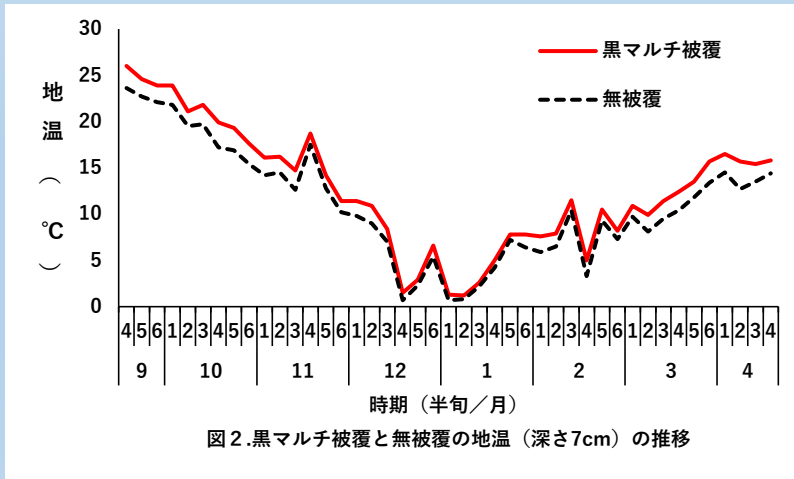


図2.黒マルチ被覆と無被覆の地温(深さ7cm)の推移

黒マルチ被覆の地温は無被覆と比較して、年平均0.6~1.5°C程度高く推移しました。

検証3 露地ほ場での黒マルチ被覆と抑草効果

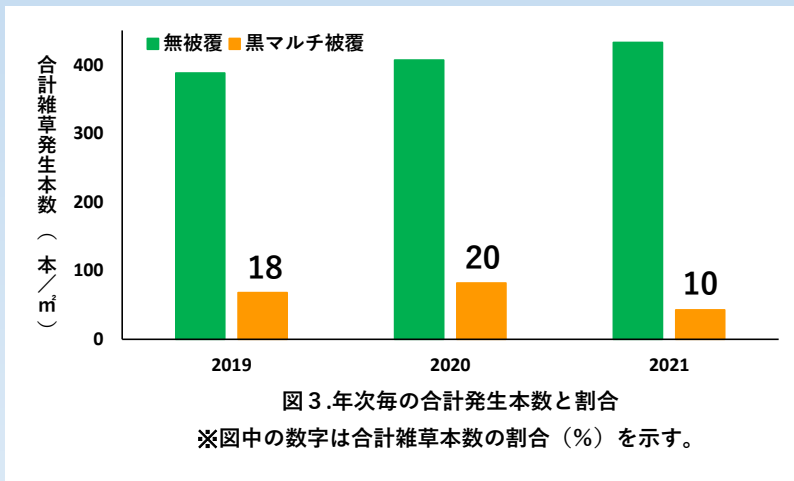


図3.年次毎の合計発生本数と割合

※図中の数字は合計雑草本数の割合(%)を示す。

黒マルチ被覆により、雑草の発生は、無被覆の10~20%に抑えられました。

利用上の留意点

- ・被覆は定植時から収穫前あるいは、4月中旬頃まで行う。
- ・被覆期間中は土寄せができないことから、青子が発生する可能性があるため、被覆除去後は土寄せを行う。
- ・畝間の雑草も抑えるには、防草シートの設置を行う。
- ・黒マルチ(厚さ0.03mm×幅1.35m×長さ200m)の資材代は約24,000円/10a程度となる。

(問い合わせ先)

鳥取県農業試験場 有機・特別栽培研究室 TEL:0857-53-0721